

高美小学校内 TM だより

R7.7.10. NO.13

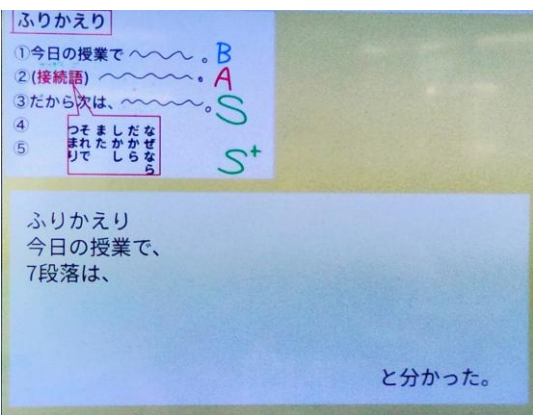
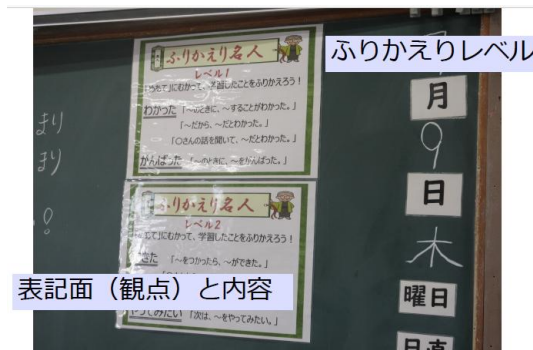
校内授業研究会がありました。3年生、4年生ともに「はてなをもとめて、自ら学びに向かう力の育成～ふりかえりを通してつながる学び～」に向けて、実践を行いました。

★3年生 算数「時こくと時間」★

「秒」という単位について学ぶ時間でした。事前に体育で「ボールリレー」を行い、その記録を本時の課題として設定されていました。自分たちの経験から課題設定がされていたので、子どもたちは課題を自分事としてとらえることができ、学びに向かう姿勢につながっていました。「分」だけでは細かな記録の違いを比べにくいことに気づき、ふきだしとして共有していました。時計を見ながら「一秒」を体感する活動を経て、普段、当たり前のように生活の中にある「秒」について改めて考える様子が見られました。終末のふりかえりでは、「R80」を取り入れた接続語でつなぐ書き方の型が示されていました。また、ヒントカードも活用し、「秒はなぜ必要なのか」という視点で、自分の考えを整理する工夫が見られました。

★4年生 国語「アップとルーズで伝える」★

単元のゴールを社会科で行う「新聞づくり」とし、そのために「アップとルーズで伝える」を読む、という学ぶ意味が明確な単元計画でした。本時のめあては「7段落の役割について考えよう」でした。めあてを達成するために、「説明文の家」を活用し、一文要約を通して、文章全体の構成をとらえる工夫が見られました。また、7段落があるときと、ないときを比べることで、その必要性に気づくことができるよう工夫されていました。終末のふりかえりでは、いきなり書く活動に入るのではなく、今日学んだことについて、近くの人と話す活動を行っていました。一度自分の考えを声に出して話したり、友だちの考えを聞いたりすることで、考えを整理したうえでふりかえりを書く姿が見られました。書く際には「R80」を取り入れた書き方の型や評価の視点も共有され、自分の学びを見つめ直すことにつながっていました。



★研究協議会★

授業後、研究協議会を行いました。それぞれの授業について出た意見をまとめました。3年生…体育での活動を導入に取り入れた課題設定により、子どもたちが「秒」の必要性を実感しながら学ぶ姿が見られた。生活経験と結び付けて学習を進めることや、学習の終わりにも生活場面に立ち返ることが大切。ふりかえりをより深めるためには、導入や終末の活動を効果的につなげる工夫も大切。4年生…前時のふりかえりや、ふりかえり前の話し合いを取り入れることで、子どもたちが考えを整理しながら学習を進めていた。各学年で発達段階に応じてふりかえりの工夫が必要。子どもたちの実態に合わせた支援や、知識の定着と活用のバランスを意識したふりかえりの在り方について意見交流が行われた。

★講師 大阪大谷大学 今宮教授の講義★

・子どもたちのつぶやきや「はてな」を生かしながら、学ぶ必要性が感じられる課題設定やめあてづくりを行うことが大切である。また、生活経験や既習事項と結び付けることで、子どもたちが見通しをもって主体的に学習に向かうことができる。

・ふりかえりの視点や文例、ループリックを共有し、書いた内容を交流することは、自分の学びを見つめ直し、次の学習につなげるうえで効果的である。

・個別最適な学習において、教員から児童への個別の声かけは、授業力と並んで大切である。

・単元ゴールを明確にし、ゴールから逆算して授業や評価を考えることが、主体的・個別最適な学びにつながる。知識を身に付けるだけでなく、身に付けた知識を活用できる力を育てる視点を大切にしていきたい。

★まとめ★

・生活経験や子どもたちの「はてな」を出発点とした課題設定は、学ぶ必要感や見通しをもつことにつながる。

・単元ゴールを明確にし、そこから逆算して授業を構想することで、子どもたちは目的をもって学習に取り組むことができる。

・ふりかえりの前に対話の場を設けたり、ループリックを活用したりすることは、自分の学びを整理し、次につなげる手立てとして有効である。

多くの学びがある授業研究会となりました。子どもたちの学びに向かう姿勢を育てるために、よりよい授業づくりができるようこれからも取り組んでいきたいと思います。

単元目標	
<3年生>	
・時刻と時間について、秒の意味を理解し、いろいろな時刻や時間の求め方を考えたり説明したりすることを通して、時刻と時間についての理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。	
<4年生>	
・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。	
・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。	
・接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。	
・文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもつことができる。	
観点ごとに分けるか	教師側か子ども側か

評価規準	
<3年生>	
・時刻や時間の求め方や秒について理解し、必要な時刻や時間を計算によって求めたり、秒の単位を用いて測定したりすることができる。(知識・技能)	
・ちょうど何秒かの時刻の区切りに着目し、時刻や時間の求め方を考えている。(思考・判断・表現)	
・身のまわりの時刻や時間に関連して関わり、ふりかえりを通して時刻や時間の求め方のよさや秒という単位の必要性に気づき、生活や学習にいかそうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)	
<4年生>	
・各段落の内容を整理する活動を通して、接続する語句の役割、段落の役割について理解している。	
・「説明文の家」をつかって、段落の構成や内容を整理・分類する活動を通して、考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	
・「読むこと」において、各段落を一文で要約する活動を通して、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基にとらえている。	
・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもっている。	
・知り尽くし、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基にとらえ、学習の見通しをもって自分の考えを伝えようとしている。	
表記の統一	観点表記

単元計画	
<3年生>	
第1次	第1時 一定時間後の時刻の求め方と時刻と時間の間の時間の求め方を考える。
第2次	第2時 一定時間前の時刻の求め方を考える。
第3次	第3時 「時間」と「分」の関係を考える。
第4次	第4時 「1分よりも短い時間の単位について調べ、「分」と「秒」の関係を考える。
第5次	第5時 学びのまとめをする。
<4年生>	
第1次	第1時 既習の読解文の構成を確認する。学習の見通しをもち、単元のめあてを確認し、学習計画を立てる。
第2次	第2時 構成について考え、友だちと学ぶ。筆者の主張について考える。
第3次	第3時 「1中」の書き方の工夫から、対比の効果を考える。
第4次	第4時 「アップとルーズで伝える」を読み、初発の感想を書く。
第5次	第5時 初発の感想を交流し、学習計画を立てる。構成の整理・要約。書き方の工夫を考え、筆者の主張をさがす。
第6次	第6時 4・5段落の役割を考える。
第7次	第7時 第3・5段落と他の段落との関係や、7段落の役割について考える。
第8次	第8時 単元の学習を振り返り、筆者の主張をまとめる。